

会報

No. 13

前 林 協  
MAERINKYO

\*\*\*\*\* 編集・発行所 \*\*\*\*\*

〒371-0035

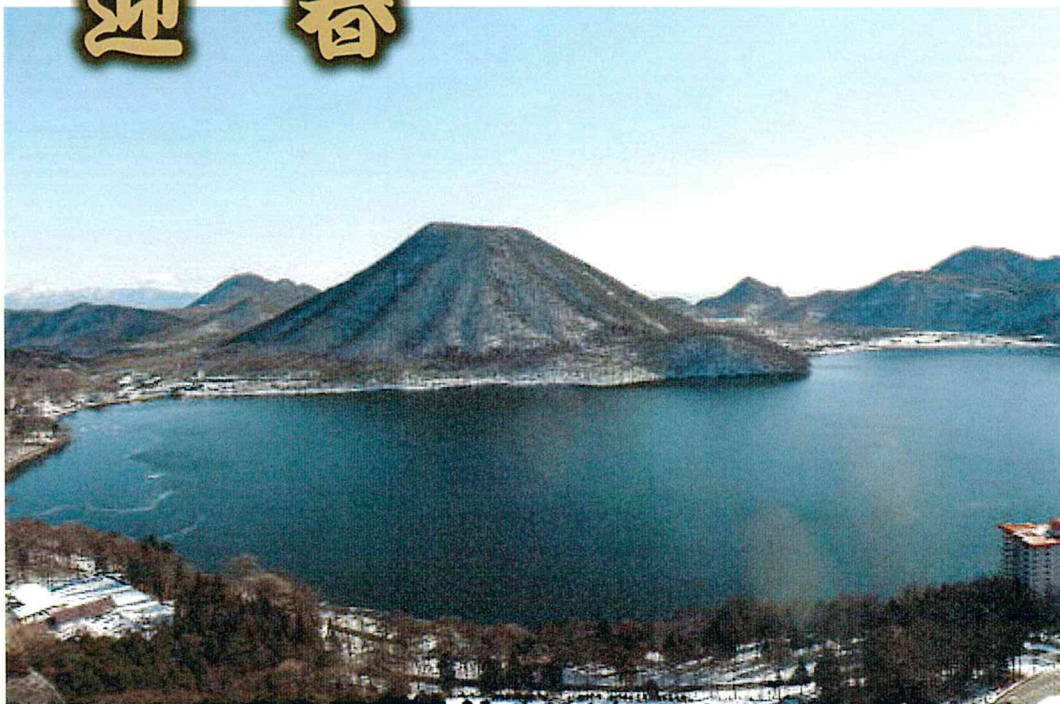
群馬県前橋市岩神町四丁目17番3号

前橋国有林森林整備協会

TEL:027(235)5150 FAX:027(235)5147

URL:<http://www.maerinkyo5150.com/>E-mail:[maerin5150@yahoo.co.jp](mailto:maerin5150@yahoo.co.jp)

迎春



群馬県 榛名湖

## ◇ 記事の内容 ◇

- 年頭のご挨拶
- 志田局長へ要望書を提出
- 平成27年度林野庁関係補正予算の概要
- 平成28年度林野庁関係予算の概要
- 林業生産技術研修会（那須会場）盛会に終わる
- 森林・林業中央研修会に会員多数参加



## 年頭のご挨拶

前橋国有林森林整備協会

会長 高山光男



新年明けましておめでとうございます。皆様には、ご健勝で新年をお迎えのことと拝察し、心よりお慶び申し上げます。

また、常日頃より当協会の運営につきまして格別のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、我が国の長い歴史の中で、人々の暮らしが、森林や木材に深く密接に関わりを持つてきたことは皆様ご承知のとおりであります。

先人たちは、森林から得られた木材を種々の道具や身の回り品、住居や燃料等身近な場面で様々な用途に使い、また、用途に応じて樹種を使い分けるなど木材の特性を巧に活かしながら木材を無駄なく利用してきました。更には、木炭、うるし、樹皮、竹材等も同様に暮らしの中で活用し、このように、我が国では生活の中で木を有効に使うていく「木の文化」が育まれてきたと言えます。加えて、きのこ類、木の実、山菜、更には下草や落葉、落枝も人々の暮らしに大きな役割を果たしてきました。

一方、木材を得るために、過度の伐採が行われ、森林の荒廃もしばしば起こりました。日本列島は細長く、急峻な地形で、かつ、地質も脆弱であることから梅雨期や台風期に豪雨が集中する傾向にあり、陸地に降った雨水は、短く勾配が急な河川に集まり、短期間に海まで流下し、河川の氾濫も起こりました。このような条件の下で暮らしてきた先人たちは、森林の荒廃や消失によって、降雨時に地表が削られ土砂が大量に流出したり、河川の流量が不安定になったことに繰り返し悩まされ、その度に森を守り再生させることの重要性を理解し、そのための努力を続けてきました。

今日その結果として、我が国は世界有数の森林国であり、国土面積の約3分の2（約二千五百万ha）を森林が占め、森林面積の約4割（約一千万ha）が人が植えて育ててきた人工林で、終戦直後と高度経済成長期の伐採跡地に植林されたものが多く占めています。こうした人工林を中心に毎年増加し、現在約49億立方メートルに達するなど資源として本格的な利用期を迎えていることは、森林の生育に適した気候や開発が困難な急峻な地形といった自然条件に加え、こうした先人たちの努力があったことによるものです。

戦後造成された人工林が本格的な利用期を迎えていく中で、豊富な森林資源の循環利用（植える↓育てる↓使う↓植える）を

推進していくためには、木材を生産する林業や、木材製品の消費者・実需者だけでなく、木材を木製品に加工し流通させる木材産業も不可欠であります。このように、現在の我が国の森林は、森林資源の循環利用の観点から、木材を積極的に伐採して、その利用を拡大していくことが求められる状況にあり、昨年6月に閣議決定された「日本再興戦略」も、林業の成長産業化が謳われ、30年前の全く産業としての先行きが見えない時代が嘘のように、ここに来て林業が地方創生を担う産業として世の中の期待を集めています。

山村地域では、農林業の衰退等により、高度経済成長期以降、若年層を中心に人口の流出が著しく、過疎化及び高齢化が急速に進んでおりますが、山村地域には独自の資源と魅力があり、これらを活用した活性化が課題となっており、各事業体の皆様は、林業のプロフェッショナル集団として、地域に密着し、様々なボランティア活動や森林整備の低コスト化に取り組みますので、今後、地域の活性化を担ってまいりますので、今後、益々地域の先導者として重要な立場となつて参ります。よって、当協会としても出来るサポートをして行きたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

ご案内のとおり林業の作業は、屋外作業





**希望を持って林業に取り組めるよう志田局長に要望書を提出****要 望 書**

謹啓 貴局におかれましては益々ご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。

日頃より、当協会の業務運営に対しまして、ご指導・ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当協会に所属する林業事業体は、地域の農山村を基盤とし、地域の森林整備事業を担うとともに、その事業を通じて地域との密接な関係を築きつつ、地域振興にも寄与してきているところです。

森林は、国土保全、水源かん養、木材の生産などの多面的機能の発揮によって、国民生活及び国民経済に大きな貢献をしております。また、これまでの先人達の努力などにより、人工林を中心に本格的な利用期を迎え、国内の豊富な森林資源を循環利用することが重要な課題となっております。

一方で集中豪雨や地震等による激甚な災害が各地で発生し、甚大な被害をもたらすなど、機能の低下した森林の速やかな復旧整備等を行うことも急務となっております。

このため、今後も継続して地域林業の担い手として、希望をもって事業に取り組み、林業の成長産業化を一層推進出来るよう下記事項について特段のご支援を賜りますようにご要請申し上げます。

**記****1 各種予算の確保と拡充について**

林業の成長産業化と山村の活性化を図って行くためには、林業労働者の人材育成・確保と通年作業可能な事業量の確保が極めて大切であります。特に、森林・林業の活性化に資するための森林整備予算、森林資源の循環利用推進のための予算及び集中豪雨等による大規模災害に備えた国土強靱化推進のための予算等々の確保並びに拡充を要請します。

**2 安定的な発注等について**

山村地域に産業と雇用を生み出し、林業の成長産業化を実現するためには、地域の実情に応じた事業の安定的な発注が不可欠であります。そのためには、一貫作業システムによる発注や市場化テストによる発注及び複数作業種の組み合わせ発注など規模の拡大・拡充をお願いします。

**3 局長等による優良表彰制度の新設**

過去の事業成績評定点による森林づくりの実績や地域の国有林保全管理への貢献、日々の技術研鑽や過去における無災害期間などの安全衛生管理の取組が正当に評価され、各事業体が将来にわたり希望を持って取り組めるよう、造林・素材生産事業部門での新たな表彰制度の新設をお願いします。

**4 事業体の育成と情報提供**

年々進化する国の施策や時代の要請等に即した事業に対応できるよう日々研鑽に努めておりますが、各事業体は言わば「情報過疎」の状態であり、大きな不安を抱えながら仕事をしているのが実態です。ついては、事業の安定的発注等を通じた事業体の育成や森林・林業技術者の育成並びに森林整備・素材生産の将来事業量の公表などの情報提供をお願いします。

**5 事務処理等の迅速化**

事業実行上で生じた諸問題に対して、迅速な対応処理に努めて頂くよう要望します。

今後も引き続き、山村地域の活性化に取り組みながら林業の成長産業化を実現出来るよう努力していく所存ですので、各項目等々において、ご配慮を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

敬 具

平成27年12月 9日

前橋国有林森林整備協会

会 長 高 山 光 男



## 平成27年度 林野庁関係補正予算の概要

林野関係合計

592億円

(単位：百万円)

項 目	補 正 追 加 額		
	非 公 共	公 共	計
合板・製材生産性強化対策事業	29,000		29,000
違法伐採緊急対策事業	200		200
輸出促進緊急対策のうち 木材製品輸出特別支援事業	100		100
地域材利用拡大緊急対策事業	1,800		1,800
森林・林業人材育成対策	300		300
シカ被害対策緊急捕獲等事業	100		100
森林整備事業・治山事業		22,010	22,010
森林整備事業		17,066	17,066
治山事業		4,944	4,944
山林施設災害復旧等事業		5,686	5,686
計	31,500	27,696	59,196

(参考) 計数は、四捨五入のため合計とは一致しない場合がある。

## 平成28年度 林野関係予算の概要

### 1 総括表

区 分	平成27年度	平成28年度	対前年度比
	当初予算額	概算決定額	
	億円	億円	%
公 共 事 業 費	1,918	1,900	99.0
一般公共事業費	1,819	1,800	99.0
治山事業費	616	597	97.0
森林整備事業費	1,203	1,203	100.0
災害復旧当事業費	100	100	100.0
非公共事業費	985	1,033	104.9
総 計	2,904	2,933	101.0

(注) 1 上記のほか、農山漁村地域整備交付金に林野関係公共事業を措置している。  
2 計数は、四捨五入のため合計とは一致しない場合がある。

### 2 東日本大震災からの復旧・復興対策(東日本大震災復興特別会計計上)

区 分	平成27年度	平成28年度	対前年度比
	当初予算額	概算決定額	
	億円	億円	%
公 共 事 業 費	434	304	69.9
非公共事業費	69	63	91.0
合 計	503	366	72.8

[平成28年度 予算の概要]

**森林整備事業・治山事業(公共)**【180,009(181,856)百万円】  
(平成27年度補正予算 22,010百万円)**対策のポイント**

- ・ 施業の集約化を図り、間伐、路網整備等を推進するほか、森林吸収量の確保に向けた条件不利地等における間伐や森林整備の低コスト化を推進します。
- ・ 自然災害に対する山地防災力の強化に向けた事前防災・減災対策等の総合的な治山対策を推進します。

**〈背景／課題〉**

- ・ 我が国の豊富な森林資源を循環利用し、安定的な木材の供給体制の構築に資するとともに、地球温暖化防止対策としての森林吸収量3.5%(の確保に向け、施業の集約化を図り、間伐、路網の整備等を推進する必要があります。
- ・ 集中豪雨・地震等による激甚な山地災害やシカ、病害虫等による森林被害が各地で頻発しており、国民の生命・財産を守るための治山対策等を推進する必要があります。

**政策目標**

- 森林吸収量の算入上限値3.5%(平成2年度比)の確保に向けた間伐の実施(平成25年度から平成32年度までの8年間の年平均:52万ヘクタール)
- 周辺の森林の山地災害防止機能等が適切に発揮された集落の増加(5.5万集落(平成25年度)→5.8万集落(平成30年度))

**〈主な内容〉****1 森林整備事業**120,286(120,286)百万円  
(平成27年度補正予算 17,066百万円)

- (1) 施業の集約化を図り、間伐やこれと一体となった路網の整備、主伐後の再造林等を推進します。その際、列状間伐等による効率的な間伐や伐採と造林の一貫作業システムの導入を通じた森林整備の低コスト化により、面的な森林整備を推進するとともに、林業専用道の防災機能の強化を推進します。
- (2) 奥地水源林等であって、所有者の自助努力によっては適正な整備ができない森林において公的主体による間伐等の森林整備を推進するとともに、鳥獣被害対策を推進します。

**2 治山事業**59,723(61,570)百万円  
(平成27年度補正予算 4,944百万円)

- (1) 集中豪雨・地震等に起因する激甚な山地災害の発生リスクの増大を踏まえ、事前防災・減災のため、荒廃山地の復旧整備や水土保持機能が低下した森林の整備に加え、予防治山対策を強化します。
- (2) 高齢世帯率の高い中山間地域における治山等激甚災害対策特別緊急事業の対象区域の拡大など大規模災害からの早期復旧を推進します。
- (3) 火山噴出後の山地災害の未然防止のため、降灰状況等の調査や火山泥流等の流下を防ぐ緊急的な対策を、治山施設の設置や防災林の整備等と一体的に実施します。



## 林業生産技術研修会(那須会場)盛會に終わる



紅葉が残る11月9日月曜日、13時から栃木県那須町湯本のリゾートホテル ラフォーレ那須を会場に公益社団法人 森林保全・管理技術研究所、一般社団法人 森林・自然環境技術者教育会、全国国有林造林生産業連絡協議会、前橋国有林森林整備協会共催の平成27年度林業生産技術研修会が行われ、福島県、栃木県、群馬県、新潟県内の22事業体から70数名が出席し、各講師の話に耳を傾けた。



最初に、東京大学大学院教授の酒井秀夫先生が、「日本における林業機械・作業システムの課題」と題して講演されました。

酒井教授は、本日の課題については①事業規模にあった機械化 ②地形・土質・地質にあった最小限でこわれにくい効果的な路網 ③道（インフラ）に応じた機械化 ④意識改革 ⑤劇場化が必要であるとお話されました。



続いて、カネイ林業の本戸三保子先生は、「林業の現場で女性が活躍するためには」と題して講演されました。

本戸先生は現在カネイ林業に就職され、造林、伐採、架線集材など天竜林業の技術学んでおられ、その経験を下に女性が働きやすい職場にするためには、①丁寧な指導 ②コミュニケーションをとる ③体調面への配慮 ④結婚しても続けられる環境づくりがある。そして、女性が林業の現場で働くためには、周囲の理解と受け入れ体制づくりが必要であるという話をされました。

(休憩を挟み)



中日本航空株式会社の統括リーダー宮坂聡先生は、「航空機搭載センサーによる野生生物の生息調査の可能性について」と題して講演をいただきました。ニホンジカの管理のためには、より効率の高い捕獲技術の開発と管理の低コスト化・省力化を図る必要性があり、その基礎となるのが、生息状況の的確な把握・調査である。新たな手法として固定翼機に赤外線映像装置を搭載して、シカが活発に活動する夜間調査の可能性について試験調査の結果を紹介して頂きました。

続いて、栃木県林業センターの丸山哲也先生には「シカを対象とした誘引捕獲の試み」と題して講演頂きました。

丸山先生は、栃木県日光地域で実際行われているモバイルカリングの手法やその結果、夜間に誘引餌に集まるシカを誘引式くくりわなによる手法やその結果について、また、現在試験中の「受け式囲いわな」の紹介もして頂きました。



長時間にわたりご静聴いただきました皆様、会場整理等ご協力いただきました皆様本当に有り難うございました。



# 森林林業中央研修会 CPD会員多数参加

全国国有林造林生産業連絡協議会と全国素材生産業協同組合連合会合同の『平成27年度森林林業中央研修会』が新年早々の1月8日、東京千代田区飯田橋のホテルメトロポリタンエドモント悠久の間において開催され、当協会から森林分野CPD会員を含む30名が全国307名の会員に混じって研修会に参加した。

この研修会は、会員である各事業体が研修を通じて共通の認識に立った事業展開に資することを目的として、毎年開催されており、全国から多くの参加者が一同に集結し、林野庁幹部による講演など最新情報の把握と一層の知識・技術の継続と研鑽に努め、森林整備事業を通じて地域社会の活性化を図るとともに、森林・林業の担い手としての強い使命感をもって仕事を展開していくという現れでもあります。



森林林業中央研修会カリキュラム

時 間	演 題	講 師 (敬称略)
13:00~13:10	林野庁幹部挨拶	林野庁国有林野部 部 長 川 端 省 三
13:10~13:50	林業事業体をめぐる諸情勢について	林野庁経営課 課 長 橋 本 裕 治
13:50~14:30	国産材の安定供給に向けた取組み	林野庁木材産業課 課 長 小 島 孝 文
14:30~15:10	民有林とも連携した国有林の新たな取り組みと技術開発	林野庁業務課 課 長 小 坂 善 太 郎
15:10~15:20	休憩	
15:20~16:10	NJ素材流通協同組合における事業経過と将来に向かっての事業展開の基本的方向について	ノースジャパン素材流通協同組合 理事長 下 山 祐 司
16:10~17:00	新たな作業システムへの挑戦	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 酒 井 秀 夫

協会の主な動き

8月19日 寺川森林整備部長打合せ（前橋市）  
 9月7日 合法木材認定団体研修会（東京都）  
 9月11日 前林協臨時理事会（前橋市）  
 9月18日 安全パトロール（湯沢町）  
 10月5日 安全パトロール（古殿町・下郷町）  
 10月6日 白河支署長への要請  
 10月6日 安全パトロール（白河市・天栄村）  
 10月8日 棚倉森林管理署長への要請（棚倉町）  
 10月13日 群馬森林管理署長への要請（前橋市）  
 10月15日 全国造生協第1回理事会（東京都）  
 10月16日 国会議員及び林野庁への要請（東京都）  
 10月29日 安全パトロール（加茂市）  
 10月30日 下越森林管理署長への要請（新発田市）  
 村上支署長への要請（村上市）  
 中越森林管理署長への要請（六日町）

今後の予定

11月4日 森林整備ボランティア（吾妻地区）  
 11月7日 森林整備ボランティア（東吾妻町）  
 11月9日 森林分野CPD研修会（那須町）  
 11月14日 今井林野庁長官現地視察  
 （福島県石川町他）  
 12月8日 前林協第2回理事会（前橋市）  
 12月9日 関東森林管理局への要請活動（前橋市）  
 12月28日 仕事納め

平成28年  
 1月4日 仕事始め  
 1月8日 森林林業中央研修会（東京都）  
 1月27日 前林協情報交換会（前橋市）  
 2月18日 平成27年度関東森林管理局  
 5月19日 森林・林業技術等交流発表会（前橋市）  
 2月25日 全国造生協第2回理事会（東京都）

人の動き

【協会への加入】

福島県石川郡平田村  
 有限会社 松崎産業  
 代表取締役 松崎 博 昭  
 福島県東白川郡塙町  
 有限会社 いしぐる  
 代表取締役 石黒 一 夫

編集後記

明けましておめでとうございます。  
 本年もどうぞよろしくお願いたします。  
 今年も「安全最優先」の考え方を基本に、  
 作業前点検の実施、作業手順や交通ルール  
 の遵守、安全な作業方法の確認など着実に  
 実施しましょう！

